

# 始まっています 地域内交流!

地域内のふれあいから始める!

## 旭台 ふれあい・いきいきサロン「ふれあい旭台」

「皆で集まって食事をするのは楽しいですね」おもちをほおぼる参加者たちから笑顔がこぼれる。旭台ふれあい・いきいきサロン「ふれあい旭台」の新年会の様子だ。

「ふれあい旭台」では、毎年定例行事のほかに区長のアイデアで新しい行事が年中行事に組み込まれる。新年会でもちつきを行うことも新倉区長のアイデアだ。今年度は暮れのクリスマス会と新年のもちつきが新しい行事として行われた。

「場所は区内の岡田さんが毎回提供してくれるので、区長が日時を設定すれば、あとは参加者やお手伝いの皆さんが率先してやってくれるん



▲ 談笑しながら食事をする参加者

ですよ」と新倉区長は笑顔で語る。

テーブルには、おもちのほか、皆が手作りで持ち寄った煮豆やふきのとうの天ぷら、漬物がずらりと並び、「こつやって皆で定期的に顔を合わせるだけでも楽しいんです」「外に出るのが億劫になりがちだけど、こういう機会があると外に出られていいし、なによりも楽しみがあるのはいいですよね」と参加者は、口ぐちに「楽しい」といって言葉を口にする。

「皆でやるってところがいいですね。行事のたびに皆さんが手伝いに来てくれて色いろな話ができる。この行事のおかげで地域の人に色いろなことを教わることができてとても助かりました。それに皆、楽しみにしているので、準備をすることすらも楽しいんです」と新倉区長は語る。

今年度は、日程の都合でできなかったが、来年度は子ども会といっしょに行事を行う予定だ。また、さらに来年度は、他の地域とも連携を図り、このサロンの盛り上げていきたいと考えているようだ。

地域内のふれあいを基盤として、地域内の繋がりを強くする。このふれあいの輪が地域の枠を越えて広がることがとても楽しみである。

今年度も3月第2日曜日に出雲伊波比神社の春の流鏑馬が行われます。春の流鏑馬は秋の流鏑馬とは異なり、華やかに盛装した3歳から6歳ぐらいの一人の幼児が大人の介添えで馬上から矢を射る、関東でも珍しい流鏑馬です。

## 山歴史散歩

### 文化財シリーズ192 子ども流鏑馬の源流 その2

奈良県春日若宮おん祭りとの子ども流鏑馬

子ども流鏑馬が登場する関西の祭りは祇園祭（京都市）や春日大社の春日若宮おん祭り（奈良市）など有名です。とくに春日若宮おん祭りについては多くの古文書が残されており、流鏑馬の詳しい推移をうかがうことができます。

この祭りは平安時代の保延2年（1136）から始められ、当初から流鏑馬が行われていました。しかし、最初は成人の武士が射手を勤め、室町時代には大和国（今の奈良

県）6党の武士団（平田党・長川党・戌亥脇党・長谷川党・葛上党・散在党）から各代表を出していました。これらの武士団は大和国内の荘園領主たちでもあり、一説では武士団を統率する目的で流鏑馬を勤めさせたともいわれます。

なかでも名誉ある流鏑馬の1番から3番の射手を巡っては武士団の威信をかけた争論となり、主催者である寺社側を悩ませました。嘉禄2年（1226）のある日記には「流鏑馬の順番を争って2つのグループが対立したが、寺社側が一方に「童形（子ども）」の射手を出すように命ずると、もう一方は子どもと争っても仕方ないと順位を譲った」とあります。以来、この祭りでは子どもの射手を積極的に勧めたと見られ、15世紀にはすっかり子ども流鏑馬になっていったようです。

春日若宮おん祭りは、中世における流鏑馬の変容を示す例ともいえ、各地の流鏑馬に影響を与えたのでしよう。



春日若宮おん祭りの射手の子どもたち